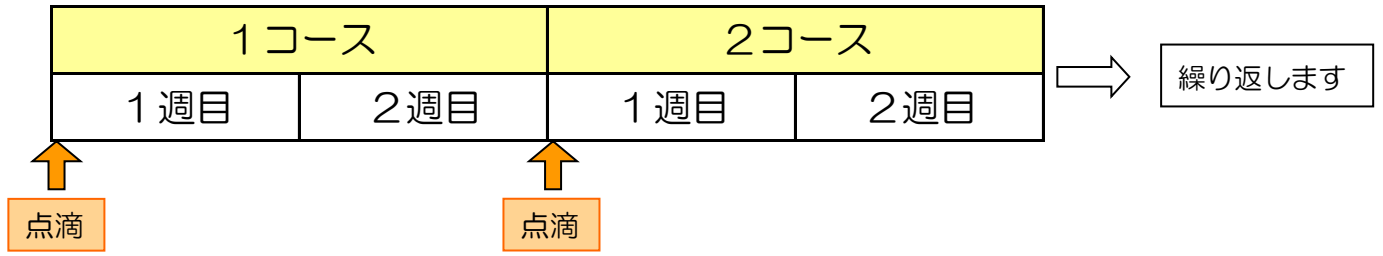


FOLFOX4（フォルフォックス4）療法について

1. 治療のながれ

治療スケジュール







通常「2週間」を一区切り（1コース）として治療します。
副作用の程度や体調によって治療計画を変更することがあります。






点滴スケジュール

点滴時間「約48時間」


1日目

薬品名	点滴時間	薬効	
 パロノセトロン +アロカリス +デキサート	30分	抗がん剤投与に伴う吐き気を予防します。 パロノセトロン：セロトニン拮抗薬 アロカリス：NK1受容体拮抗薬 デキサート：副腎皮質ホルモン（ステロイド） 過敏反応の予防にも用います。	
 生食 50ml	15分	点滴ルートを洗い流します。	
同時投与	 5%ブドウ糖 250ml +レボホリナート	120分	フルオロウラシルの抗腫瘍効果を高めます 細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります
	 5%ブドウ糖 250ml +オキサリプラチン	120分	
	 5%ブドウ糖 50ml +フルオロウラシル	15分	
	 ヴィーンD500ml +フルオロウラシル	22時間	

2日目

薬品名	点滴時間	薬効
 生食 100ml +デキサート	30分	抗がん剤投与に伴う吐き気を予防します。
 5%ブドウ糖 250ml +レボホリナート	120分	フルオロウラシルの抗腫瘍効果を高めます
 5%ブドウ糖 50ml +フルオロウラシル	15分	細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります



	ヴィーンD500ml +フルオロウラシル	22 時間	細胞の分裂を抑え抗腫瘍効果があります
---	-------------------------	-------	--------------------


血液検査の結果や問診による自覚症状の有無を確認し、化学療法実施の決定を医師が行います。この他にも輸液等を使用することがあります。




2. 予想される副作用

- 副作用は、治療内容や個人個人で症状の現れ方や程度が異なります。このため、副作用が出現した場合は、早期に対応できるようにすることが重要です。
- 副作用は、治療開始後すぐに起こる症状や、治療を繰り返すことで起こる症状があります。
- 副作用は「自分でわかる症状」と「血液検査などでわかる症状」があります。

副作用の特徴を理解し、体調に異常を感じた場合はすぐにお知らせください。

▼ 「自分でわかる症状」




副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
吐き気・嘔吐・食欲不振 投与直後から 7 日目頃 	<ul style="list-style-type: none"> 投与後すぐに起こる場合。 投与翌日から 1 週間ぐらいの間に起こる場合。 投与前から起こる場合。 食事のにおいなどで起こる場合。 <p>これ以外でも変わったことがあった場合は報告してください。 吐き気止めや症状や原因に応じてその他の薬剤を使用します。</p>
下痢 投与直後から 7 日目頃 	<p>普段から便通の状態を把握するように心がけてください。 腹痛や、下痢でトイレの回数が多い場合は報告してください。 症状が出現したときは水分補給をこまめに行ってください。 下痢止めや水分補給のための点滴を使用します。</p>
便秘 投与直後から 7 日目頃	<p>便を軟らかくする薬や腸の動きをよくする薬を使用します。 また症状に応じて、坐薬や浣腸を使用することがあります。</p>
過敏症 投与当日 	<p>発疹、発赤、咳、発熱、悪寒、呼吸苦、浮腫など 薬剤や食物などのアレルギーは必ず申し出てください。 少しでもおかしいと感じたときはすぐに申し出てください。 症状出現時は、抗アレルギー剤、ステロイド剤を使用します。 まれに投与後に症状が出現することがあります。</p>
血管痛 主に投与中	<p>痛みや発赤、腫脹など少しでも違和感がある場合はすぐに報告してください。 血管を温めたりすることで症状を軽くすることができます。</p>
末梢神経障害 主に投与後から 5 日間程度	<p>手、足のしびれや痛み、のどやあごが締めつけられるような感じ、食べ物が飲み込みにくい 舌の感覚がおかしい など 投与後に冷たいものの刺激によって起こります。</p>

	<p>投与後 5 日間程度は、冷たい食べ物や飲み物の摂取は避け、冷氣や冷たいものに触れないようにしてください。症状は、出現しても一過性のものです。</p> <p>投与を繰り返すと、症状が持続することがありますので、すぐに申し出てください。通常は、休薬で症状は改善します。</p>
<p>疲労感・倦怠感・発熱 投与後 2 日から 3 日目頃</p>	<p>無理をせず、十分な休息とるようにしてください。</p> <p>肝機能が影響して症状が出現する事があります。</p> <p>発熱の症状に応じて解熱剤を使います。</p> 
<p>口内炎・歯肉炎 投与後 7 日から 14 日目頃</p> 	<p>口の中を清潔に保つように心がけてください。</p> <p>刺激の強いものや極端に熱いものはなるべく避けてください。</p> <p>痛みで歯磨きができない場合でも、うがいはしてください。</p> <p>症状が出現時は、軟膏やうがい薬を使用します。</p>
<p>間質性肺炎</p>	<p>空咳、息切れ、発熱など</p> <p>症状を感じたら受診し、適切な治療を受けてください。</p>
<p>色素沈着</p>	<p>手足や爪を中心に全身の皮膚が黒くなったりします。</p> <p>直射日光を避けるようにしてください。</p> <p>症状は薬剤を中止で改善する報告があります。</p>
<p>眼障害 結膜炎、かゆみ、目やになど</p>	<p>症状に応じて抗菌剤等の点眼液を使用します。</p> <p>洗眼することで症状が軽減することがあります。</p>

▼「検査でわかる症状」



定期的に検査を行い、問題ないことを確認していきます。

副作用	出現時の対策・日常生活における注意点
<p>白血球・好中球減少</p> 	<p>感染症にかかりやすくなります。感染予防を心がけてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰宅時に手洗い、うがいを行う。 ・歯みがきは口の中を傷つけないように気をつける。 ・風邪など感染症にかかっている人に近付かない。 <p>風邪などの症状がある場合は早めに受診するようにしてください。 減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。</p> 
<p>赤血球減少</p> 	<p>めまい、倦怠感、息切れなど貧血時に見られる症状が出現します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・減少の程度によって、内服薬または注射薬を使用します。 ・減少の程度では、輸血することがあります。
<p>血小板減少</p> 	<p>出血しやすくなります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・怪我や内出血（打ち身などによる）に注意してください ・覚えのない内出血や血便が見られたときは報告してください ・減少の程度に応じて輸血することがあります
<p>腎機能 肝機能 電解質 などの項目も問題ないか確認していきます</p>	

ここに書いてある以外の副作用が現れるかもしれません。普段と何か違うな、おかしいなと感じたときは医師、薬剤師、看護師に報告してください。

治療を受けているときは、様々な不安や疑問を感じると思います。
そのようなときは主治医、薬剤師または看護師にお気軽に相談してください。



鹿児島市医師会病院 化学療法委員会
099-254-1125